第５回「安曇野の昔話」の主人公たち

――昔話の歴史的、民俗学的成り立ちを探る――

歴史民俗学研究者　浜野安則

１．はじめに――昔話と民話のちがい

◇「民」の付く新しい学問

・**民俗学**（folklore=民間伝承）日本では柳田国男（1875～1962）が創始。
民族学⇨文化人類学（ethnology）　世界を対象。民俗学とは重なる領域も多い。

・**民具学**　渋沢敬三（1896～1963）の「アチック・ミューゼアム」から出発。

・**民芸**　民衆の工芸品（folkcraft）の略。柳宗悦（1889～1961）が提唱。

◇**柳田国男**――前代の人々の歴史や信仰を知るための重要な対象。手を加えてはいけない。

・民間伝承のなかの「**口頭伝承**」

◎**昔　話**　「昔むかし、ある所に……めでたしめでたし」（定型）

◎**伝　説**　真実として語られ、信じられる話。具体的な事物や場所を対象。

◎**世間話**　特定の地名や人名が出て経験や事実のように話される。

◇「**民話**」の出発

・木下順二『夕鶴』（1949）佐渡の昔話「鶴女房」に取材した「民話劇」。
民衆の遺産としての「民話」を現代的課題に照らして創造し直さなければ意味がない。

・「民話の会」から「日本民話の会」設立、機関誌『民話の手帳』創刊（1978）

・**松谷みよ子「龍（たつ）の子太郎」**（1960）国際アンデルセン賞受賞　翻訳・映画化

◇**昔話と民話のちがい**

・柳田の嫌悪感　関敬吾『島原半島民話集』（1935）を批判　「昔話」を術語として確立

・松谷みよ子『現代民話考』（1985）＝採話　民俗学への理解　改変せずに収録

２．文献に見える安曇野の昔話（伝説）――南安曇教育会の採話活動

◇**『信府統記』**享保９年（1724）　松本藩（水野氏）の地理歴史書。「両郡旧俗伝」。

◇**『信濃奇勝録』**井出道貞著・天保５年（1834）　孫の通が明治20年（1887）出版。

◇**『善光寺道名所図会』**豊田利忠著・天保14年（1843）成立・嘉永２年（1849）刊行。

◇**『長野県町村誌』**長野県国史編輯局編・明治17年（1884）成立・昭和11年（1936）刊行。各町村の山川・社寺・古跡名勝・風俗などの該当事項を記す。

◇旧**『南安曇郡誌』**（南安曇郡編纂、南安曇郡教育会蔵版・発行、大正12年）
「第三編事実編　第十二章風俗　第五節伝説」として15話採録。

◇**『南安口碑伝説集』**（信濃教育会南安曇部会郷土調査委員会、昭和７年、ガリ版刷）
前書との重複を避け89話採録。「万水川の河童神」収録。

◇新**『南安曇郡誌』**第２巻下（南安曇郡誌改訂編纂会・昭和43年）
「第五編民俗　第九章伝説」として46話採録。

文献に見える安曇野の昔話（伝説）

文献名	成立年	デーラボッチャ	八面大王	常念坊	万水川の河童	泉小太郎	ものくさ太郎	雑炊橋
信府統記 旧俗伝	享保９ 1724		◎ 坂上田村麿			◎ 小太郎/小次郎		△ 雑師橋
信濃奇勝録 筑摩郡/安曇郡	天保５ 1834					◎ 牛伏		◎ 雑食橋
善光寺道名所図会 巻之二、五	天保14 1843					◎ 和泉の長者	◎ おたがの大明神	△ 雑食橋/橋杭なし
長野県町村誌 中・南信篇	明治17 1884	× 火打岩社/室山	◎ 鬼ノ窟	× 常念岳	× 万水川	△ 牛伏寺	◎ ◎ 物臭太郎/墓	△ 雑司橋
旧・南安曇郡誌 風俗・伝説	大正12 1923	◎ 室山	◎ 魏石鬼/矢村の矢助	◎ 行者/山姥		◎ 日光泉小太郎	◎ をたかの明神	◎ 雑炊橋
南安曇 口碑伝説集	昭和７ 1932				◎ 万水川の河童神			
新・南安曇郡誌 民俗・伝説	昭和43 1968	◎ 背負山ほか	◎ 坂上田村麻呂	◎ 岩原/田多井/新田	◎ （口碑伝説集）	◎ 日光泉小太郎	◎ おたかの大明神	◎ おせつ/清兵衛
長野県史民俗編 中信地方/伝説	平成２ 1990	◎ 小倉ほか	◎ 穂高ほか	◎ 田多井	△ 沢渡ほか	△ 宮本ほか	◎ 下新	――

３．昔話「泉小太郎」と民話「龍の子太郎」（松谷みよ子）を比較

【スライド＆朗読】

◇**古い伝承**　『信府統記』（享保９年・1724）に原形が収録され、２説を併記。

①日光泉小太郎　犀竜と白竜王の子。放光寺山の辺で成長する。仏崎の岩穴に隠れる。

②泉小次郎　鉢伏権現の子の。犀に乗って山を破る。犀を出川の水引大明神に祀る。

◇「牛伏寺由来記」寛保３年（1743）にも見える。「鉢伏山上の権現の男子、小治郎」

◇**蹴裂（湖水）伝説**　甲府盆地＝二神二仏、由布院盆地（大分県由布市）＝蹴裂権現社。

・河川の合流点、水害常襲地で治水の加持祈祷をする修験者（山伏）が伝播したか？

・泉小太郎は水を治める竜神の子、最期は竜にもどり母の竜のもとに帰る。

◇**松谷「龍（たつ）の子太郎」**　赤鬼・青鬼、天狗、雷神など他の昔話の素材を加える。

・龍の子太郎の母は罪を犯して竜に変えられ、赦されて人間にもどる。

４．デーラボッチャ　【スライド＆朗読】

◇**ダイダラ法師伝説**　柳田国男「ダイダラ坊の足跡」（定本５）　天地創造神話⇨巨人伝説化。柳田「伝説は昔話を信じたいと思う人々の、特殊なる産物であった」。

・**巨人の足跡**＝芦ノ田（塩尻市洗馬）、芦之久保（朝日村古見）、あしの窪（松本市城山）

・「大太法師」（『山島民譚集（二）』）　ダイダの語義＝大男の一般的な綽名（あだな）

・**デーラボッチャの火打石**　岩岡神社の御神体（松本市倭岩岡）＝チャートの巨礫。

・**断層の名残**　室山・中山は地殻変動によって隆起した断層が丘状に残った地塁。

5．八面大王　【スライド＆朗読】

◇**八面大王（魏石鬼）**　享保９年（1724）成立の『信府統記』に記載。

◇**坂上田村麻呂**　実在の武将・坂上田村麻呂（758～811）の陸奥平定（791～803）。信濃に約70の伝承。清水寺（山形）、若沢寺（波田）、満願寺（穂高）、高山寺（穂高）、清水寺（大町）、盛蓮寺（大町）＝京都・清水寺縁起との関係（天台宗系僧侶の伝播？）。信濃国は東北平定の経路ではあったが、賊徒退治は史実ではない。

◇**穂高古墳群**　６世紀後半の築造、現在64基（かつては100基超）。馬具を出土。御牧・猪鹿の牧との殿関係。魏石鬼岩窟は巨石を用いた単独墳（ドルメン式古墳）。中世の修験者が石室で護摩祈祷をした痕跡。

◇**矢村の弥助**（矢助）「鶴女房」系の異類求婚譚、動物報恩譚。柳田『日本昔話集』（1930年）に収録（のち『日本の昔話』新潮文庫）。

6．常念坊　【スライド＆朗読】

◇**人恋しい山姥**　暮れの市にかぎって里に降りてくる山姥。柳田「山の人生」（定本４）。「山女多くは人を懐かしがる事」「山男にも人に近づかんとする者ある事」。

◇**修験者**　田尻村・正福院の常念坊、牧村・満願寺の常念坊によって開かれたとも。

◇**W.ウェストンが聞いた話**　明治27年（1894）８月７日、常念岳登山前夜の野宿で、藤原老人が「昔むかし」と常念岳の由来を語る（『日本アルプスの登山と探検』収録）。「山盗人が夜風にのって山の上から聞こえてくる読経と鉦の音に逃げ出した」。

◇**雪形**　４月上旬～５月上旬に「常念坊」の雪形。変わって「万能鍬」。農事暦。

7．万水川の河童　【スライド＆朗読】

◇**「河童駒引」**（柳田国男・1914年『増補　山島民譚集』平凡社東洋文庫137・1969年）許してやる代わりに、膳椀を借りる。魚を獲る方法を教わるなど。

◇**骨接の民間医療**　民間薬や療法をもたらした修験者から、中世の在地領主（地侍）＝近世の農村の庄屋層が伝授。家伝として河童からの伝授されたと伝える？

◇**相馬黒光が聞いた話**　明治30年（1897）星良（相馬黒光）が相馬愛蔵家に嫁ぐ折、「断たれた片腕を返してほしいと教えた」と聞く（相馬黒光『穂高高原』昭和19年）。

8．まとめ

◇『安曇野の昔話』全７冊（AZU・2004年）、安曇野豆本文庫『安曇野の民話』全４冊（安曇野ブランドデザイン会議・2009年）の発行。昔話・民話には変わらぬ人気。

◇現代における昔話と民話の意味を再考　⇨現代の語り部は生まれるか？

・家庭から教育現場へ――幼稚園・保育園、小学校低学年。教師・保育士の適切な語り。

・郷土学習の教材として――児童・生徒の研究。教師の指導が不可欠。

・観光の現場で――来訪者と地域住民の相互交流の素材として。